



だより



R8.5.19 Vol.7

それぞれ

十人十色、三者三様、そんな言葉があります。「それぞれ」ってことですね。私の思い出の中の松蔭小を追っていても前に進めませんので、改めて校長室から運動場を眺めていたら(誰が?笑)、今の子供たちが見えてきました。私が担任したかつての6年生は、全力で私を倒しに来ていました。今年の6年生を見ていると、平塚先生と楽しくサッカーしている姿も見ろのですが、1年生たちの手をつないで一緒によく遊んでくれています。不安いっぱいの1年生にしてみたら、こんなにうれしいことはないでしょう。学校に勢いがあることも、もちろん大切ですが、こうやって静かに関係を築き、下学年の子供たちに安心を与えてくれている6年生の姿もすてきだなと思います。



昼休み

『次の誕生日の子は誰だったかなあ』と名簿を見ながら、ウクレレをつま弾いていると、ドアの向こうから、5年生の女の子たちでしょうか?「校長先生!何弾いてるんですか?」「何だと思う?」「トトロのさんぽ!」「わ!当たり!よくわかったね!一緒に歌う?」と伴奏を始めると、ドアを挟んだ校長室と廊下で小さな合唱が始まりました。一番を歌い終わって、「すごい!上手だったね」と声をかけると、「は~い!校長先生ありがとうございました~。」と教室のほうへ戻っていきました。

ほんの1分足らずの時間でしたが、『教師になってよかったなあ』と改めて感じたひとときでした。

若い頃は『一緒に歌う?そんなこっ恥ずかしいこと、できるか!』と身構えていたものですが、歳を重ねるのも案外いいもんですね…。

四方山話松蔭 ver. 其の七(火遊び…もとい!火起こし)

先日、一人でふらっと野遊びに出かけました。鳥のさえずり、水のせせらぎ、木々のささやき、遠くから聞こえる子供の遊ぶ声、そんな心地よい音を聞きながら、のんびり時間を過ごしていたのですが…。「火起こし!してみよっかな。」ふと思い立ちました。木の棒と板の摩擦で火種をつくる例のあれです。(どれだよ!)その辺に落ちていた木切れを適当に拾ってきて開始です。一応、理科免許を持った教員ですし、知識としてやり方は頭に入っています。『楽勝でしょ!』と、たかをくくってやり始めると…。棒を回せど回せど、木の板(火切り板)に穴があいていくだけで、煙すら出ません…。「理科教員をなめるなよ!」と今度は弓切り式に変更してみました。例のあれです。(↓これです)颯爽と木を削り、弓を作り縄をかけて火切り棒を「えいや!」と回すと、縄が空回り



するだけで、棒が回りません。「おきーっ!」完全にムキになった私は、板や棒をとっかえひっかえ、「あーでもない!こーでもない!」と試行錯誤をしながら、やり続けた結果、辺りはすっかり夕暮れ時…結局3時間以上格闘して手が豆だらけになったただけでした。惨敗…(今日はこのくらいにしといてやろう…。爆泣)帰り道のなんと遠かったことか…。「経験こそ最高の学びである。」こんな言葉があります。今、学校のトイレに入る

と、人感センサーで勝手に電気がつきます。最近のトイレは用を足した後、水も勝手に流してくれますよね。とても便利ですが、その代償となっているのは経験です。小さなことかもしれませんが、自動化によって様々な経験が奪われています。今やマッチを擦るという経験すら(理科学習で指導しますが…)していない子供が大半だと思います。しっかり自分の身体を使って感じる経験や苦労、それがあからこそ物事への疑問や感謝の念がわいてくるのだと思います。もちろん私もこのまま終わらせません。絶対火を起こします!(笑)

切り取り線

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。